

事業事前評価表
国際協力機構東南アジア・大洋州部東南アジア第二課

1. 基本情報

- (1) 国名：ラオス人民民主共和国（以下、「ラオス」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：チャンパサック県（78 万人）
- (3) 案件名：南部地域における中核病院整備計画（The Project for The Improvement of the Referral Hospital in the Southern Region）

G/A 締結日：2026 年 1 月 9 日

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における保健セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け
ラオスは、人間開発指数が 0.617 で 193 カ国中 147 位（2023 年、国連開発計画）、出生時平均余命は 69.0 年で東南アジア諸国連合（以下、「ASEAN」という。）10 カ国中 8 位（2024 年、国連世界人口推計）等、東南アジアで最も保健セクターの開発が遅れている国の一つである。感染症や母子保健関連の疾患が主要な死因に残る一方、脳卒中や心疾患などの非感染性疾患による死亡も増加し（2020 年、世界保健機関（以下、「WHO」という。）、多様化する課題を抱えている。しかし、医療資源の量・質ともに不十分で、保健サービスのカバー率を示すユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）サービスカバレッジ指数（0-100 で示され 100 が最良）は 52 で ASEAN 加盟国の中で最も低い状況にある（タイ 82、ベトナム 68）（2023 年、WHO）。さらに、重篤な患者に医療サービスを提供する 3 次医療機関がラオス中部の首都ビエンチャンに集中しており、国内における地域間格差も課題である。

首都から約 700km 離れた南部地域には 3 次医療機関がなく、中核病院であるチャンパサック県病院が県内下位医療施設のみならず近隣県（アタプー県、サラワン県及びセコン県）からの患者搬送にも対応し、制度上 2 次医療機関であるが実質的に南部地域での 3 次医療機関としての役割を担う。他方、同病院では、施設・機材の老朽化や診断・治療機器不足による検査・治療の制約・遅延、病床不足による衛生環境の悪化や患者プライバシーの欠如などの課題を抱え、3 次医療機関に求められる水準を満たしていない。心疾患や脳血管疾患、重症外傷への対応の遅延は患者の生命に影響する中、多くの患者が隣国タイや首都への受診・搬送を余儀なくされ、身体的・経済的負担の増大と医療サービスへのアクセス阻害要因となっている。また、同病院は、県内外の保健人材養成機関の臨床実習を受け入れ、南部地域での現任教育においても指導的役割を担うが、施設・機材の不足により効果的な臨床実習環境となっていない。以上から、同病院の救急、手術部門、集中治療室など医療サービス提供機能の強化は喫緊の

課題となっている。

「南部地域における中核病院整備計画」（以下、「本事業」という。）では、チャンパサック県病院において、救急、手術部門、集中治療室などを備えた中央診療棟などの施設や必要な機材の整備を行うことにより、地域全体の保健医療サービスの質を向上させ、もって南部 4 県の地域医療システム強化に寄与することが期待される。地方における質の高い保健インフラの整備は、ラオス政府の「第 9 次国家開発計画（2021-2025）」において、UHC 達成のため優先度の高い事業に位置付けられている。また、本事業は、気候変動に伴う大雨・洪水等の異常気象の頻発リスクに対し、公共保健インフラのレジリエンス（強靱化）を高める点において、同国のパリ協定に基づく「自国が決定する貢献（NDC）」における目標と整合するものである。

（2）保健セクターに対する我が国及び JICA の協力量針等と本事業の位置付け

「対ラオス国別開発協力量針（2024 年 3 月）」では、重点課題（中目標）「包括的で安定した社会基盤の強化」のもと、ラオス保健省が掲げる 2025 年までの UHC 達成及び 2030 年までの持続可能な開発目標（以下、「SDGs」という。）達成に向けて「保健人材及び保健医療サービスの質向上に資する協力」を行うことを挙げている。また、JICA グローバル・アジェンダ「保健医療」では、「保健医療サービス提供強化～強靱・公平・持続可能な UHC の達成～」クラスターにおいて、「JICA は特に人材育成、施設・資機材整備、施設マネジメントに重点を置き、保健医療サービスの質と量の向上に取り組むもの」としている。チャンパサック県病院を整備し、保健医療サービスの提供体制を改善することは、これらの方針・分析に合致する。

（3）他の援助機関の対応

WHO は、保健セクターにおける中央レベルでの政策調整機能の改善や開発計画策定を支援。特に、病院認証制度の検討を主導し、JICA やアジア開発銀行（Asian Development Bank。以下、「ADB」という。）、世界銀行と協働している。

ADB は、借款事業「Improving the Quality of Health Care Project」（2024～29 年）で、保健人材養成機関や郡病院の施設・機材整備、病院認証制度の検討を実施中。また、2024 年より国境地域における質の高い保健医療サービスへのアクセス改善を目的とした「Greater Mekong Subregion Border Areas Health Project」（2024～29 年）を実施中。これらの事業は、本事業対象のチャンパサック県病院も対象に含んでおり、本事業とともに地域全体の保健システム強化への貢献が期待される。

3. 事業概要

(1) 事業概要

- ① 事業の目的：本事業は、ラオス南部4県（チャンパサック県、アタプー県、サラワン県及びセコン県）の中核病院としての役割を担うチャンパサック県病院において、重篤な患者に対する効果的かつ効率的な医療サービス提供に必要な医療施設及び機材の整備を行うことにより、同病院の診断・治療体制の強化及び下位医療施設との連携の円滑化を図り、もって同4県の地域医療システムの強化を通じた同国における保健医療サービス強化に寄与するもの。

② 事業内容

ア) 施設、機材等の内容

【施設】中央診療棟（救急部門、手術部門、集中治療室、滅菌部門等）、機械室棟の新設（総延床面積約 5,671m²）

【機材】手術台、超音波診断装置、腹腔鏡セット、高圧蒸気滅菌装置、プラズマ滅菌装置等

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、入札補助、調達監理等。ソフトコンポーネントとしては、5S-カイゼン手法を用いた医療機材等の物品整理を強化するための指導、特定機材を対象とする臨床応用と効果的運用のための指導、院内感染症及び術後感染対策の指導を計画。

③ 本事業の受益者（ターゲットグループ）

直接受益者（約 10.5 万人/年間）：チャンパサック県保健局及び対象医療施設関係者・利用患者

最終受益者（約 156 万人）：チャンパサック県の住民（約 78 万人）及びチャンパサック県病院に搬送される南部3県の住民約 78 万人（アタプー県：17 万人、サラワン県：47 万人、セコン県：14 万人）（2023 年、ラオス統計局）

(2) 総事業費：2,940 百万円（概算協力額（日本側）：2,865 百万円、ラオス側：75 百万円）

(3) 事業実施スケジュール（協力期間）：2025 年 12 月～2029 年 11 月を予定（計 48 か月）。施設及び機材の供用開始（2028 年 11 月）をもって事業完成とする。

(4) 事業実施体制

① 事業実施機関：保健省（Ministry of Health）

② 運営・維持管理機関：チャンパサック県病院（Champasak Provincial Hospital）

(5) 他事業、他援助機関等との連携・役割分担

- ① 我が国の援助活動：チャンパサック県病院に対しては、無償資金協力「セタティラート病院及びチャンパサック県病院整備計画」（2018 年 GA）により医療機材（CT、X 線撮影装置等）計 12 品目を整備している。本事業により、使用する診療科や目的の異なる追加機材を整備し、過去に整備した機材の負荷を軽減し有効利用を図る。また、技術協力「病院の保健医療サービスの質および財務管理改善プロジェクト」（2022～25 年）では、南部 4 県において、病院の質評価基準に基づく保健医療サービスの質と病院財務管理の改善を支援しており、本事業によるハード面の強化により、保健省による質基準を満たした保健医療サービス提供体制構築における相乗効果が見込まれ、質改善のモデルとして同国中北部など他地域への拡大を含む波及効果が期待される。さらに、技術協力「看護師・助産師継続教育制度整備プロジェクト」（2024～27 年）では、南部 4 県を含む全国規模の看護師の卒後研修を支援しており、本事業により、チャンパサック県病院における研修提供体制の改善が見込まれる。「保健政策アドバイザー」（2016～26 年）は、WHO と日本が調整会議共同議長を務める中央での政策調整機能改善や開発計画策定の支援を行っており、南部地域の保健システム強化に係る相乗効果が見込まれる。
- ② 他援助機関等の援助活動：本事業と同時期に、ADB は、国境地域の人々の質の高い保健医療サービスへのアクセスを目的として「Greater Mekong Subregion Border Areas Health Project」（2024 年承認。総事業費 24.9 百万米ドル、うち 4.95 百万米ドルがグラント。）をチャンパサック県、ポンサリー県、サワンナケート県の 3 県において実施中。対象病院の一つとしてチャンパサック県病院の改修を計画しており、ADB 及びラオス政府側との協議の結果、本事業は 3 次医療施設を目指す上で重要な中央診療機能（救急部門、手術部門や ICU 部門）を中心とした新棟の建設、ADB は既存棟（外来・入院棟、母子保健棟等）の改修とすることで、協力に重複がないことを確認し、病院全体のマスタープランを作成した。また、新棟と既存棟を渡り廊下で接続することで一体的な建物として機能させ、病院機能の拡張や医療従事者及び利用者の利便性を確保する。既存棟にある一部機能は本事業による新棟完工後に機能移転をする必要があるため、両者の工期が計画どおりに進むよう留意する。さらに、ADB は、豊かで強靱なアジア太平洋のための日本基金（JFPR）を活用して医療機器管理能力向上を目的とした技術協力「Strengthening Medical Equipment Management in the Lao PDR」（2024 年承認）をチャンパサック県を含む全土で実施することから、本事業との相乗効果も期

待できる。

(6) 環境社会配慮

① カテゴリ分類：C

② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2022年1月公布）上、環境への望ましくない影響は最小限であると判断されるため。

(7) 横断的事項

① 貧困配慮：チャンパサック県近隣県の貧困率はサラワン県 24.9%、セコン県 30.6%、アタプー県 27.8%で、いずれも国平均 18.3%よりも高い（2020年、ラオス計画投資省）。本事業により、南部主要都市パクセに位置するチャンパサック県病院が整備され、近隣県の貧困層が質の高い医療をより身近な場所で利用できるようになることで、保健医療サービスの質とアクセスが改善することが期待される。

② 気候変動対応策への貢献：本事業は、省エネルギー設備の導入により、気候変動対策緩和策に資する可能性がある。また、気候変動に伴う大雨・洪水等の異常気象の頻発リスクに対し、公共保健インフラのレジリエンス（強靱化）を高める点において、同国のパリ協定に基づく「自国が決定する貢献（NDC）」における目標と整合するものであり、気候変動対策適応策に資する可能性がある。

(8) ジェンダー分類：【対象外】■GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

<分類理由>ジェンダーの視点に立って開発課題に関する調査が行われ、先方政府とジェンダーに配慮した取り組みについて協議したものの、具体的な取組等の計画には至らなかったため。

(9) その他特記事項：特になし。

4. 事業効果

(1) 定量的効果

指標名	基準値 (2023/2024 年実績値)	目標値 (2031 年) 【事業完成 3 年後】
救急外来患者受入数 (人/年)	38,381 (2024)	46,057
メジャー手術 (注1) 件数 (件/年)	2,201 (2023)	2,866
ICU 入院患者数 (人/年)	699 (2023)	1,563
県外医療施設からの入院患者数 (注2) (人/年)	4,467 (2024)	5,311

(注1) メジャー手術とは、主に麻酔をかけて手術室で行われる手術を指し、同病院では虫垂炎、胆石、脳出血の血腫除去等が含まれる。

(注2) 県外で治療が困難な治療（脳外科手術（開頭）、膝関節・大腿骨骨折、外傷、子宮筋腫（内視鏡））等への対応数を示すもの。

(2) 定性的効果

- ① 救急サービスの質及び病院全体の医療サービスの質が向上する（患者満足度や院内衛生環境、医療従事者動線の改善など）。
- ② 地域医療のトップレファラルとして南部地域の他の医療施設で対応できない重篤な患者への治療体制を拡充することにより、南部 4 県の住民の地域内における適切な医療へのアクセスが改善し、隣国のタイや首都ビエンチャンに搬送することなく診断・治療が完結し、患者の身体的・経済的負担が減少する。
- ③ 提携している保健科学短期大学や近隣県の保健学校の医学生や看護学生等への卒前・卒後における臨床実習環境が改善し、実習満足度が向上する。

5. 前提条件・外部条件

- (1) 前提条件：特になし。
- (2) 外部条件：特になし。

6. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

パキスタン国向け無償資金協力「イスラマバード小児病院改善計画」（評価年度 2011 年）の事後評価では、医療機材の運営維持管理のための予算や人員体制の確保の重要性が指摘されている。かかる教訓を踏まえ、本事業では、対象医療施設の運営維持管理能力や医療サービスの技術レベル、また、修理対応や交換部品、消耗品の現地調達が可能であることを十分に確認した上で機材計画を策定し、適切な予算・人員の確保がなされることを合意している。

7. 評価結果

本事業は、ラオスの開発課題・開発政策並びに我が国及び JICA の協力方針・分析に合致し、チャンパサック県病院における重篤な患者に対する効果的かつ効率的な保健医療サービス提供に必要な医療施設及び医療機材の整備を通じてラオス南部 4 県の地域医療システムの強化に寄与するものであり、SDGs ゴール 3「すべての人に健康と福祉を」に貢献することから、事業の実施を支援する必要性は高い。

8. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる指標

4. のとおり。

(2) 今後の評価スケジュール

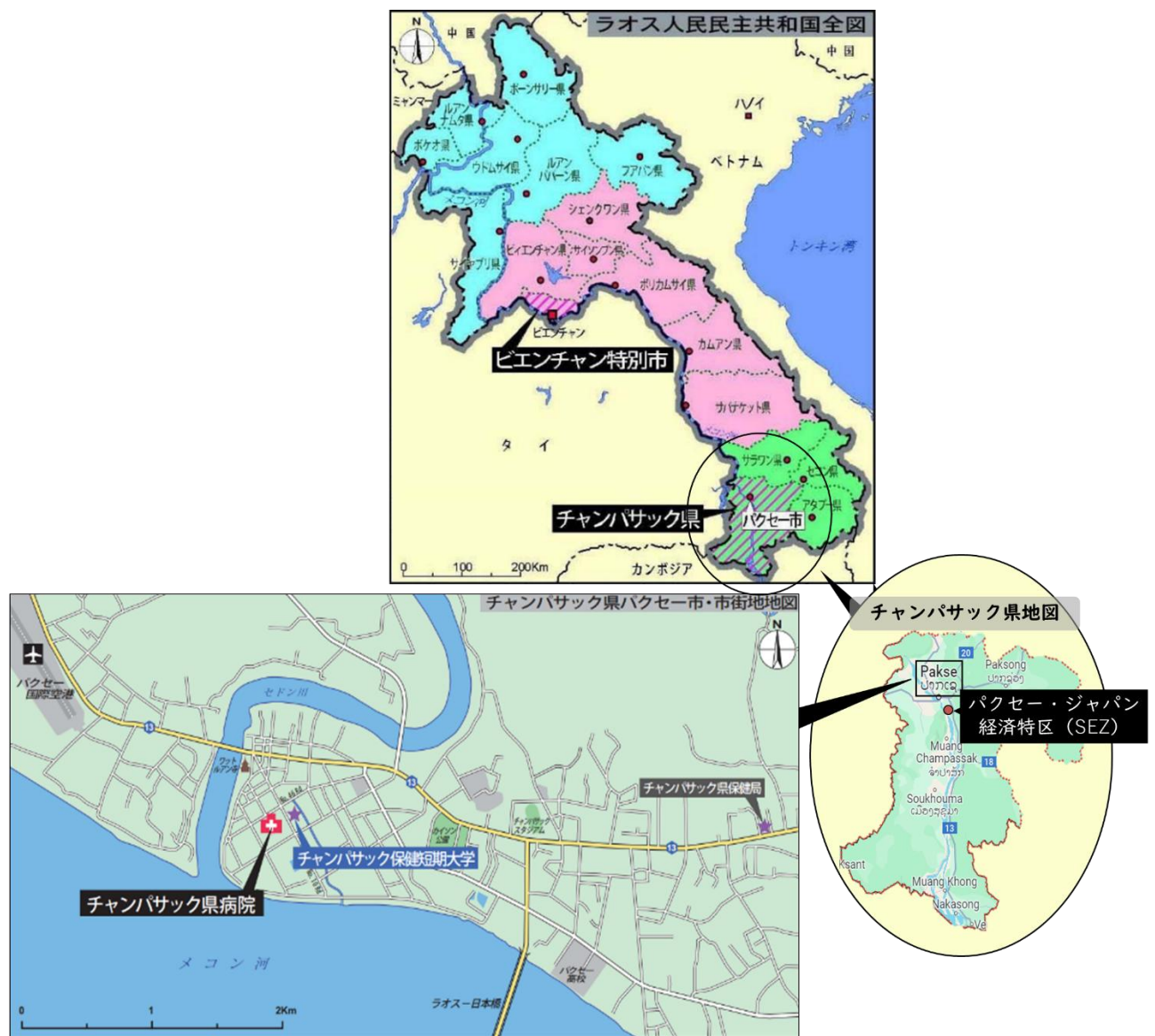
事業完成3年後 事後評価

以 上

別添資料 「南部地域における中核病院整備計画」地図

別添

「南部地域における中核病院整備計画」地図



出典：ラオス人民民主共和国「セタティラート病院及びチャンパサック県病院整備計画」協力準備調査報告書（[12301305.pdf \(jica.go.jp\)](#)）より JICA 作成